第3種郵便物認可　京都新聞

戦中の女学生 青春つづる

東山の西村さんの日誌 中京で展示

海洋訓練の様子 詳細に

戦時中の海洋訓練の内容を詳細につづった京都市東山区の女性の大学ノートが、10日から中京区のハートピア京都で開かれる展示会「伝えたい『戦中・戦後』のくらし」で公開される。モールス信号などの講義内容を図解入りで記しているほか、おしゃれや恋愛もできなかった時代への思いを伝えている。

つづったのは西村佳津さん（84）。精華高等女学校（京都精華女子中・高）4年生だった1944年4月、同級生20人と4泊5日の日程で舞鶴市の舞鶴海兵団の訓練に参加した。この時の様子を直後にB5判ノート38ページに収めた。

戦後、ノートを自宅で保管してきたが、戦時中の女学生の心情を後世に伝えたいと、2004年に昭和初期の国民生活資料を集める昭和館（東京都）に寄贈した。今回は同館主催の全国巡回展に伴い、地元京都で展示されることになった。

ノートには海軍体操などの実技や講義で教えられた海軍精神、食糧事情が厳しいなかでおなかいっぱい麦飯を食べたことなどが書かれている。日程を終えて帰路につく前に担当の教班長らが海兵団の正門前で見送ってくれたことに触れ「涙があふれてとどむ事出来ず」「思い出深き海兵團さらば！」と締めている。

西村さんは「今思うと海洋訓練は『女子も銃を取れ』ということだったかもしれない。おしゃれや恋愛もできなかった時代で唯一見いだせた青春だった。当時の状況に思いをはせるきっかけにしてほしい」と話す。

展示会には馬町（東山区）の空襲被害を伝える写真や疎開先から京都市の児童が両親に送った手紙など京都関連資料を含む計253点が並ぶ。無料。18日まで。（生田和史）

上 女学校時代に舞鶴海兵団へ海洋訓練に赴いた思い出をつづった日誌のコピーを見つめる西村佳津さん（京都市東山区の自宅）

下 海洋訓練に参加した精華高等女学校の生徒20人